

学生が構想から設計、製作を手掛けたフォーミュラカーの性能を競う第15回全日本学生フォーミュラ大会(自動車技術会主催、静岡新聞社・静岡放送後援)が5日、袋井市のエコパスタジアムで開幕した。国内外から94チームがエントリーし、本県からは静岡大と静岡理工科大、静岡工科自動車大学校が出場して9日までのぎを削る。(袋井支局・伊藤龍太)



車検に臨む静岡大チーム
115日午後、袋井市のエコパスタジアム

構想から製作まで 自作マシン集結

94チーム 性能競う

大会はICV(ガソリンエンジン)クラスとEV(電気自動車)クラスで実施。初日は自動車メーカーや部品メーカーの技術者らが車検の審査員を務め、車両の安全性や騒音の程度、ブレーキの効き具合などを確認した。デザインの革新性や生産コストなどを問う静的審査も行った。

静岡大チームリーダーの3年倉健雄さん(21)は「車検では思わぬミスもあったが、今まで考え抜いてきたことを実践したい」と2日目以降を見据えた。7日からは8の字コースにおける旋回性能

やコースでのベストタイムなどを競う動的審査が始まる。大会は2003年に始まり、06年から県小笠山総合運動公園で開かれている。

学生フォーミュラ エコパで開幕